

弥生の絵画 わじん 倭人の顔

—描かれた2000年前の世界—

3月25日(日)まで

観覧料▷大人400円 小人200円
休館日▷毎週月曜日、21日(休)

下の絵と写真は、鳥取県の淀江町から出土した大型のつぼの上の部分で、複数の絵が描かれています。右から、太陽、船をこぐ人、高層の建物、平屋建物、木につり下げられた銅鐸？、そして鹿となります。弥生時代の絵画を紹介する際には必ず登場する非常に有名な資料です。



船をこぐのは、頭に飾りをつけて鳥の格好をしている司祭者です。弥生時代には鳥（ツルやサギ）が幸福をもたらすと考えられ、まつりを行う司祭者は鳥の格好をしていました。また、高層の建物は階段またははしごがかかりますが、その高さは他に比べても際立っていて、神殿などの特別な建物の中でも特異な存在だったことが想像されます。



こうした複数の絵をほぼ横一直線に並べていることから、これらは、ひとつの物語（ストーリー）を描いた連作と考えられています。

3月の催しもの

●パネルディスカッション

「弥生人の入墨」

3月11日(日)午後2時/エントランスホール

コメンテーター▷設楽博己氏(国立歴史民俗博物館助教授) 司会▷天野暢保氏(安城市歴史博物館前館長)

パネリスト▷小林繁樹氏(東京造形大学教授)、赤塚次郎氏(愛知県埋蔵文化財センター)、笹川龍一氏(香川県善通寺市教育委員会)、伊藤純氏(大阪市教育委員会)

●土曜講座

「古井遺跡群の調査から」

3月10日(土)午後2時/講座室

講師▷岡安雅彦(本館学芸員)

●体験講座

「幻の貝を食べる—貝の種類と環境の変化—」

3月17日(土)午前10時/体験学習室

講師▷斎藤弘之(本館学芸員) ※本紙24ページを参照

●映画会

ファミリー映画アニメ MARCO「母をたずねて三千里」

3月25日(日)午前10時・午後2時/視聴覚室

歴史博物館 (☎<77>6655)

デンパーク花だより

チューリップ



肌寒さの中にも、日に日に春らしさを感じられるようになってきました。パンジーやビオラ、ハボタンが中心だった屋外の花壇にも、3月下旬ごろになると色とりどりのチューリップが咲き始めます。ヨーロッパ風のお花畑や世界の梨園など園内の主な花壇で、約3万本のチューリップを4月中旬ごろまで楽しむことができます。

また、フローラルプレイスでは、「スプリングフラワーショーI」を18日(日)まで開催中です。春の訪れをテーマとしたガーデンにはチューリップ、フリージア、プリムラなどの花々が春の雰囲気を感じさせてくれます。温室内では、オレンジ・紫・黄色など約170本のチューリップがかわいらしい花を咲かせています。

★3月24日(土)から5月6日(日)まで、「開花4周年 スプリングフェス2001」を開催します。イベント内容などは本紙次号でお知らせします。

問い合わせ▷デンパーク (☎<92>7111)